

研究機関：広島大学

研究課題名	肝臓移植周術期患者に対する腹水濃縮還元治療の免疫学的解析
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 教授 大段秀樹
研究期間	2018年9月3日（倫理委員会承認後）～ 2023年3月
対象者	2017年4月1日～2022年3月31日の間に難治性腹水に対して腹水濃縮還元療法を行う肝臓移植周術期患者
意義・目的	<p>本研究の目的は、難治性腹水を有する肝臓移植患者の腹水濃縮還元治療を免疫学的に解析し、治療効果を向上させることである。</p> <p>一般に、難治性腹水を有する肝硬変患者、肝移植患者の予後は不良である。大量腹水貯留は、食事摂取低下や体動困難から低栄養・筋力低下を引き起こす。また、腎血流低下に伴う腎不全が助長される。症状緩和を目的とした腹水穿刺排液は、蛋白漏出により更なる栄養状態低下が懸念される (Kawaratani H, et al. Hepatol Res, 2017; 47(2): 166)。我々は、松崎らの開発した特殊な腹水濾過濃縮装置 (KM-CART) (Matsusaki K, et al. Int J Clin Oncol, 2011; 16(4): 395) を導入して、難治性腹水を有する肝臓移植周術期患者に対し、大量の腹水濃縮還元治療を行っている。しかし、これまでに肝臓移植周術期患者に対して腹水濃縮還元治療を行い解析した報告はない。したがって、難治性腹水を有する肝臓移植患者の治療成績向上のために本研究の意義は高いものと考ええる。</p>
方法	<p>肝臓移植を予定しているもしくは肝臓移植を受けた患者のうち難治性腹水に対して腹水濃縮還元療法を行った者を対象とする。腹水濃縮還元療法前後の血液検査評価、バイタル測定や副作用などの安全性評価、腹水濃縮前後の血清学的評価、また濾過排液腹水中に含まれる細胞や液性因子の解析を行う。個人情報管理者が外部とは独立したパーソナルコンピュータで管理し、個人情報管理者しか知らないパスワードを設定し、コンピューターをセキュリティの厳重な部屋に保管することにより、除法の漏洩に対する安全対策を講じる。採取した腹水排液中の細胞は、臨床研究棟6階施設可能な検体保管室の液体窒素内で厳重に保管する。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	所属 消化器・移植外科 職名 教授 氏名 大段 秀樹
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。(モニタリング有の場合) ただし、モニタリングのためプライバシーが保護されること</p>

を条件に、研究者から業務委託された者が、あなた個人を特定できる形で診療情報を閲覧することがあります。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5222

広島大学病院未来医療センター 職名 助教 大平真裕

広島大学病院消化器・移植外科 所属 消化器・移植外科 職名 大学院生 今岡 祐輝